

ご挨拶

駐シンガポール日本国特命全権大使

石川 浩司



シンガポール日本商工会議所（JCCI）の2024年年次総会に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

まず、馬場会頭をはじめ、この一年、役員を務められた皆様におかれては、大変お忙しい中、JCCIのために御尽力頂きましたことにつき、心より敬意を表します。また、本日選任された江口新会頭はじめ新役員の皆様に対し、御就任にあたり心よりお祝い申し上げます。日頃より私ども大使館においてもJCCIと緊密に連携しながら業務を進めてきておりますが、これからの一年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年の経済について申し上げますと、賃上げ、設備投資、株価など、いずれも30年ぶりの高水準を達成し、日本企業が新たなステージに移行する明るい兆しが随所に出てきました。江口新会頭にとっては追い風の中での船出となります。シンガポールに目を向けますと、大規模研究拠点の新設や脱炭素化プロジェクトへの参画、スタートアップとの連携など、東南アジアのハブ、テストベッドとしての利点を活用した具体的な取り組みが活発になっています。新体制のJCCIの元で、企業間の連携が促進され、1つでも多くの事業がビジネスに繋がりますことを心より御期待申し上げます。

政府レベルでも、日本とシンガポール政府による経済対話（JSED：Japan Singapore Economic Dialogue）を昨年より開始し、両国政府共催によるマッチングイベントを行うなど、企業間の協業を促進する取り組みを行っています。大使館でも、JCC（Japan Creative Centre）を活用して、日本文化の発信のみならず、日本食やエネルギー、航空・宇宙など幅広いジャンルのセミナー、交流イベントを開催しています。引き続き、JCCIとも協力して皆様の積極的な投資、新たなプロジェクトの設立をサポートして参りますので、これまで以上に連携を取らせていただければと存じます。

また、今年は、ローレンス・ウォン副首相による新政権が発足する可能性が高く、日・シンガポールの関係にとって大きな節目の年となります。新しい首相と共に、これまでの強固な信頼関係を維持し、さらに強化していくことが今後の重要な課題となります。日系企業によるシンガポール経済への貢献は、信頼関係構築の大きな鍵です。皆様とともに日・シンガポールの関係を深化していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、シンガポール日本商工会議所及びその会員会社の皆様の益々の御発展を祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。